



活動報告



水道技術管理者資格取得講習会（東京会場：9月24日～10月15日、オンライン第1回：10月6日～28日）

水道法施行規則第14条第3号による登録講習機関として、東京会場80名、オンライン第1回84名の参加を得て、「水道行政」、「公衆衛生・衛生管理」、「水道経営」、「水道基礎工学概論」、「水質管理」、「水道施設管理」について15日間の学科講習を実施した。

なお、学科講習修了者は、この後に「水道施設の技術的基準を定める省令第5条」に適合する過設備を有する水道施設において、15日間の実務講習を行う。

第115回経営調査専門委員会（10月7日）

はじめに、「水道料金改定業務の手引き」について審議し、事務局から改訂のポイントや各内容について説明を行い、質疑応答が行われた。

次に、今後の各委員による修正作業やスケジュールの共有を行った。



第43回広報専門委員会（10月10日）

はじめに、審議事項①「人材確保に向けた水道界の魅力向上に繋がる広報手法の検討について」を事務局より上程し、検討の目的、方向性、今後の進め方について事務局から説明し、了承された。

次に、審議事項②「水道料金改定に向けた広報手法について」を事務局より上程し、検討の目的、方向性、今後の進め方について事務局から説明し、了承された。

続いて、委員から提案された情報交換事項「①イベントの実施について」、「②紙媒体の広報紙の発行について」、「③作品コンクールについて」、「④マスコットキャラクターの活用について」、「⑤イベントで配布するノベルティグッズ等の作製について」、「⑥広報活動の効果検証方法について」、「⑦SNSの活用について」に対して、活発な意見交換が行われた。

最後に、事務局より、「①令和7年度全国会議・2025広島水道展における体験型水道イベントの実施について」、「②情報発信スキルアップセミナーの開催について」を報告した。



第1039回会誌編集委員会（10月16日）

本誌10月号の編集方針、投稿原稿の査読状況等について審議を行った。

第210回水道 GLP 認定委員会（10月21日）

水道 GLP 認定について審議した結果、沖縄県企業局（JWWA-GLP049）、一般社団法人埼玉県環境検査研究協会（JWWA-GLP097）、株式会社丹野（JWWA-GLP130）及び一般財団法人千葉県薬剤師会検査センター（JWWA-GLP132）の認定更新を決定した。

また、株式会社イズミテック（JWWA-GLP026）、水戸市上下水道局（JWWA-GLP072）、新潟東港地域水道用水供給企業団（JWWA-GLP073）及び株式会社エオネックス（JWWA-GLP121）の認定維持を決定した。



水道技術管理者研修会（第2回：10月23日～24日）

水道技術管理者または管理者を補佐する方々64名の参加を得て、「水道事業を取り巻く環境の変化」、「水道整備・管理行政の移管に係る水道施設の災害復旧事業（負担法移行後）」、「水道水質管理に関する最近の動向」、「水道事業における危機管理対策－震災予防対策～震災応急対策－」について研修を実施した。

また、千葉大学大学院工学研究院丸山教授により「水道施設耐震化の重要性」について講義を行った。

配管設計講習会（九州会場第1回：10月29日～31日）

水道事業者及び民間企業等において配管設計の経験が少ない水道技術者の方々55名の参加を得て、「水道の課題と設計業務」、「配管設計・積算の基礎知識」、「製図の基本」、「管路（GX形）の製図演習」、「積算の基本」、「管路（GX形）の積算演習」について研修を実施した。

第5回理事会（10月28日）

青木理事長が議長となり、議案の審議に入った。

はじめに、報告事項として「公益社団法人日本水道協会の会務について」を報告した。

続いて、議案の審議に入り、第1号議案「公益社団法人日本水道協会第



107回総会の運営について」、第2号議案「会員の入会について」が上程され、審議の結果、原案のとおり決定した。

また、その他事項として酒井理事より「能登半島地震に係る中長期の職員派遣について」の説明があった。

令和7年度全国会議〔第107回総会・水道研究発表会〕

（10月29日～31日 於：広島県立総合体育館・ホテルメルパルク広島）

～1日目（10月29日）～

オープニングセレモニーでは、開催地代表・松井広島市長、本協会副会長・大森岡山市長、国土交通省・石井大臣官房上下水道審議官、水道研究発表会論文審査等合同会議・滝沢委員長、日本水道工業団体連合会・北尾会長によるテープカットを行った。

開会式では、開催地代表として松井広島市長より、日本水道協会代表として大森岡山市長より挨拶を行った。



開催地代表挨拶：
松井広島市長



日本水道協会代表挨拶：
大森副会長（岡山市長）



国土交通省・石井大臣官房
上下水道審議官祝辞

続いて、国土交通省・石井大臣官房上下水道審議官、環境省・高城大臣官房審議官、総務省・福島大臣官房審議官、広島県知事（代読・山根副知事）、広島市議会・八條議長、日本水道工業団体連合会・北尾会長より来賓祝辞があった。



環境省・高城大臣官房
審議官祝辞



総務省・福島大臣官房
審議官祝辞



広島県知事祝辞：
代読 山根副知事



広島市議会・八條議長
祝辞



祝辞：日本水道工業団
体連合会・北尾会長

表彰式では、大森副会長より、松原前国土交通省大臣官房上下水道審議官に感謝状を贈呈した。続いて、日本水道協会会長表彰が行われ、功労賞として村上裕之氏他13名、特別賞として見藤晋二氏他91名、有効賞として木村昌弘氏、勤続賞として三島孝司氏他594名に表彰状を授与した。



感謝状



日本水道協会会長表彰（功労賞）



日本水道協会会長表彰（特別賞）



日本水道協会会長表彰（有効賞）



日本水道協会会長表彰（勤続賞）

水道イノベーション賞及び広報大賞表彰・事例発表では、水道イノベーション賞大賞として名古屋市上下水道局、特別賞として川崎市上下水道局他5団体、水道イノベーション賞広報大賞として熊本市上下水道局、広報特別賞として横浜市水道局他2団体に表彰状を授与した。続いて、大賞・広報大賞の受賞団体より、事例発表が行われた。



日本水道協会会長表彰（水道イノベーション賞）



水道イノベーション広報大賞事例発表

第107回総会では、榎原広島市水道事業管理者が議長となり議案の審議に入った。

第1号議案「公益社団法人日本水道協会名誉会員の承認について」が上程され、審議の結果、原案のとおり、中野道孝氏が名誉会員に承認された。この議決を受け、名誉会員推戴式を開催し、大森副会長より名誉会員推薦状及び名誉会員徽章を贈呈した。



名誉会員推戴式



中野名誉会員



議長：榎原広島市水道事業管理者

休憩後、第2号議案「公益社団法人日本水道協会定款の一部変更及び関連規則の一部改正について」、第3号議案「公益社団法人日本水道協会役員報酬等規程の一部改正について」第4号議案「公益社団法人日本水道協会運営会議委員の選任について」が上程され、審議の結果、原案のとおり承認された。

続いて、第5号議案「会員提出問題について」が上程された。

はじめに、『I. 防災・減災、国土強靱化』に関して、災害対策関係として問題1「水道施設の災害対策に対する財政支援」、問題2「水道事業の災害対策の強化」、問題3「非常時における電力及び通信ネットワークの確保」、東日本大震災関係として問題4「放射性物質に係る対応の推進及び東京電力福島第一原子力発電所の事故を原因とする損害賠償」、国土強靱化関係として問題5「水道管更新に係る施工の取扱い等」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。



会員提出問題提案理由説明

次に、『Ⅱ．水道の基盤強化』に関して、補助関係として問題6「水道事業に対する財政支援の拡充及び要件の撤廃等」、問題7「水道施設の更新・再構築事業に対する新たな財政支援体制等の確立」、問題8「省エネルギー・再生可能エネルギー設備の導入促進に向けた柔軟な制度運用」について、起債・繰出関係として問題9「起債融資条件の改善及び地方公営企業繰出制度の拡充等」、問題10「公的資金補償金免除繰上償還制度及び公営企業借換債制度の復活」、問題11「簡易水道事業統合等に対する財政支援」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅲ．安定・安全の確保』に関して、水源関係として問題12「安定水源の確保及び水源施設における堆積土砂対策等の推進」、問題13「水利権制度の柔軟な運用」、問題14「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針への対応」、問題15「特定多目的ダム供用開始後に要する利水者負担額の軽減」、水質関係として問題16「水道水源における水質保全対策及び水質事故の発生防止の強化等」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

次に、『Ⅳ．その他の重要事項』に関して、問題17「電磁式を含む水道メーターの検定有効期間の見直し」、問題18「電気料金等の高騰に対する支援制度の拡充」、問題19「地下水利用等による専用水道に係る法整備及び対応」、問題20「配水管等の耐用年数の見直し」、問題21「塗膜に含まれる低濃度ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物の処理等」、問題22「分水、区域外給水の解消方法の簡素化について」、問題23「将来に亘る水道事業の持続に向けた人材の確保及び広報等について」、問題24「ウォーターPPPの導入検討に関する積極的な情報提供について」、問題25「水道分野の国際協力における水道事業者の役割の明確化及び国際協力活動への財政支援」が上程され、討議の結果、関係当局に陳情することと決定した。

行政施策説明では、国土交通省・草川企画専門官並びに総務省・内村公営企業経営室長から各省の水道事業への施策について説明があった。

次年度全国会議開催地の決定では、全国会議の開催地は、北海道地方支部から九州地方支部までの持ち回りとなっており、次年度開催地として、九州地方支部から長崎市を推薦いただいていることを事務局から報告し、満場一致で長崎市に決定した。

なお、同日午後から水道研究発表会が11部門に分かれて開催され、発表数は事務49、計画50、水源・取水12、浄水72、導・送・配水135、給水装置25、機械・電気・計装18、水質67、リスク管理・災害対策42、脱炭素化11、英語15、計496編の発表が行われた。



水道研究発表会の様子

～2日目（10月30日）～

シンポジウムでは、「強靱で持続可能な水道システムの構築～水道カルテから考える水道の基盤強化～」と題し、パネリストに、国土交通省の若公氏、八戸圏域水道企業団の高屋敷氏、新潟市水道局の川瀬氏、高知市上下水道局の土居氏、日本水道協会の本荘谷工務部長、またコーディネーターとして広島市水道局の鬼村氏をお招きし、基調講演や意見交換を行った（速記録は本誌2月号に掲載予定）。

また、水道研究発表会と並行し、30日と31日に4コースに分かれ広島市の水道施設の視察を実施した。

また、会期中には、広島市の協力のもと、本協会と日本水道工業団体連合会で「体験型水道イベント」を開催したほか、開催地並びに次年度開催地のPRコーナー、中国四国地方支部内の県支部PRコーナー、水道イノベーション賞・広報大賞パネル展示、日本水道工業団体連合会による水道展等が開催され、多数の見学者で賑わった。



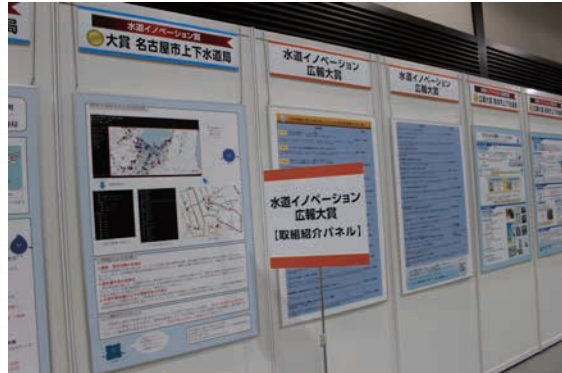
シンポジウムの様子



体験型水道イベント



開催地 PR コーナー



水道イノベーション賞・広報大賞パネル展示



水道展